

【文献紹介】

日本ケベック学会編 『ケベックを知るための56章【第2版】』 明石書店、2023年

矢頭典枝
YAZU Norie

本書は、日本ケベック学会の設立15周年を記念して刊行されたものである。2008年に設立された日本ケベック学会は、その翌年に設立を記念して『ケベックを知るための54章』を小畑精和・竹中豊編著として出版した（小畑・竹中、2009）。今回の『ケベックを知るための56章』は初版を発展的に継承し、その第2版として刊行されたものである。初版は、明石書店のエリア・スタディーズで初めて一国内の特定地域を取り上げた書であった。この第2版の構想が持ち上がったのは初版の刊行から13年を経た2022年の夏であり、1年半かけて2023年12月に刊行された。今回の第2版では、矢頭典枝、大石太郎、飯笹佐代子、真田桂子、近藤野里、古地順一郎、廣松勲、神崎舞が編集委員を担当した。執筆者は当学会の会員を中心に総勢45名にのぼり、初版には名を連ねなかった会員が数多く執筆陣に加わって、ほとんどの章を新たに書き下ろしている。当学会の設立15周年を記念する書であることを前面に出すため、表紙には編集委員の氏名を出さず、「日本ケベック学会編」とした。

本書の第一の特徴は、初版を踏襲する形で、フランス語文化圏ケベックを、地理、歴史、多文化社会、政治と経済、言語と教育、文学、芸術文化、人々の暮らし、という面から総合的に描いている点である。以下は各セクションの概要である。

「I 地理」のセクションでは、ケベックの自然環境と諸地域、人口と都市、観光資源についてわかりやすく解説し、後述するように、ケベック州以外のフランス語圏の諸地域と人々についても紹介している。

「II 歴史」のセクションでは、17世紀はじめに建設されたフランス植民地が英領植民地となり、カナダという国家になった後はケベック州として「英語の海」のなかで生き残ってきた歴史を解説し、ケベック史におけるカトリック教会の位置づけについても詳述している。

「III 多文化社会」のセクションでは、ケベック州の民族的・宗教的多様性

を概観したうえで、移民受け入れの状況、先住民、多様な宗教との共生の模索、性的マイノリティを検討し、カナダの英語圏の多文化主義とは一線を画すインターカルチュラリズム（間文化主義）について詳述している。

「IV 政治・経済・対外関係」のセクションでは、同州の政治の仕組みと政党政治、主権達成の行方について解説し、他州フランコフォンとの関係と国際社会におけるケベックの立場を検討している。また、経済についてはケベックの産業、日本との経済関係を解説し、社会保障と保健・社会福祉サービスの分野まで踏み込んでいる。

「V 言語と教育」のセクションでは、ケベック・フランス語の特徴、世界で最も厳格といわれる言語法「フランス語憲章」とその施行を監督する言語機関「ケベック州フランス語局」の活動について詳述し、教育に関しては同州の教育制度を概観し、倫理・宗教教育と移民に対するフランス語教育についても検討している。

「VI 文学」のセクションでは、19世紀に誕生したケベック文学の変遷とケベック詩について解説し、アンヌ・エベールやジャック・ゴドブーなどケベック文学を代表する作家、イヴ・テリオールなどの先住民作家、ベトナム出身のキム・チュイなどの移民作家、また、ニューブランズウィック州とハイチ出身の作家とその作品も紹介している。

「VII 芸術文化」のセクションでは、ケベックの文化政策、演劇、ダンス、映画、アニメーションについて解説し、そして、日本でも有名なサーカス集団シルク・ドゥ・ソレイユ、映画監督のグザヴィエ・ドラン、歌手のセリーヌ・ディオーンも個別に取り上げている。

「VIII 社会と人々の暮らし」のセクションでは、ケベコワの家族の形、食文化、冬の暮らし、四季折々の生活、フェスティヴァルについての解説を通して、「ジョワ・ドゥ・ヴィーヴル」を満喫するケベコワの暮らしが描かれている。

本書の第二の特徴は、初版ではほとんど紹介されなかったケベック州外のフランス語圏についても、地理、対外関係、文学の面で章とコラムを掲載している点である。地理のセクションではマドレーヌ諸島やニューブランズウィック州などカナダ東部の大西洋沿岸諸州、オンタリオ州のフランコフォン（フランス語話者）、南北アメリカに存在するフランスの海外県、ハイチなどのカリブ海の島々を紹介している。また、対外関係では、ケベックとカナダ国内の他のフランス語圏とのつながり、そして、ケベックと海外のフランコフォニーとの関係をわかりやすく解説している。また、文学のセクション

では、沿海諸州ニューブランズウィック州出身のアントニヌ・マイエについてコラムで、また、エミール・オリヴィエを中心にハイチ出身の作家とその作品について章で解説している。そして、ハイチ出身作家の中でも最も著名なダニー・ラフェリエールについてコラムで詳述している。

最後に、第三の特徴は、初版にはなかったコラムを23項目も設けている点である。先述のケベック以外のフランス語圏についての項目の多くはコラムとして掲載されている。これらのコラムの多くは、章に書かれている内容の具体的な事例やエピソードなどを内容とし、当該章のすぐあとに配置されている。また、本書では、ケベックで生まれ育った人、ケベックに永住している人、ケベック滞在が長かった人たちにも執筆を依頼し、アイスホッケーにまつわる話、独特なビール、ケベックの四季折々の生活などをコラムで紹介してもらった。

56章と23コラムから成る本書は、学術的な内容を多く含んでいるが、ケベックに興味を持つ一般の人々を主な読者層に想定しているため、一気に読み切れるように短く、そして理解しやすく書かれている。明石書店の「エリア・スタディーズ」シリーズのモットーは「ガイド本より深く、専門書より浅く」であるが、本書は執筆者たちの専門性に深く基づいていながら、一般の読者たちにフレンドリーなケベック紹介本となっている。本書が広く日本におけるケベック理解に貢献できれば幸いである。

参考文献

小畑精和・竹中豊編『ケベックを知るための54章』明石書店、2009年